

平成8年度 入選 「税への第一歩」 (3年女子)

私の祖母は今、一人で小さな野菜畑を作りながら、毎日を過ごしています。いつだったか、ふと、ある疑問を持ちました。それは「おばあちゃんとおじいちゃんは仕事を退職して、どうやって生計をたてているのだろう」ということでした。

小学生だった私には、とても不思議なことだったので、母に尋ねると「おばあちゃんになったら年金というのがあって、生活費などは心配いらぬのよ」と、教えてくれました。幼かった私にはよく理解できなかったから「ふーん」というだけでした。

今考えてみると、祖母が畑仕事を楽しみながら、一人で生活できるのは税金のおかげだと思います。私はこの「税の作文」にとりかかるまで、税については全くと言っていいほど知りませんでした。「税金なんて払うだけ無駄なのでは」という気持ちさえありました。しかし、それは私の思い違いで、悪いイメージと百八十度違うことに気がつきました。

祖母のこともありますが、ここ和歌山県でも高齢者に対して、すてきな事を実行しています。五日や十五日と決まった日だけですが、その日はバスや銭湯などの料金を払わなくてもいいそうです。これも税金のおかげだと知りました。高齢者に対してさまざまな手助けがあるのは「今まで頑張って働いてくれてありがとう」という感謝の気持ちがこもっているようで、暖かい感じがするのでうれしいです。そして、手助けができるのは税金のおかげです。だから、税金を払うことは、無駄なんじゃなくて、ちゃんと私たちのために役だっているのだと分かりました。

税にはいろいろの種類があると知り、今まで消費税ぐらいしか知らなかったから、その多さにはとても驚きました。私の家の近くに、お気に入りの花壇があります。いつ見てもきれいで、かわいい花がたくさん咲いているので大好きです。これも税金と関係しています。私たちが大量に出すごみの処理やけがをしたときの治療費なども税とかかかっているのだと初めて分かりました。

もうすぐ消費税が5%に上がります。嫌だと思ふ反面、その税は私たちのために、良い形となって返ってくるのだからという気持ちもあります。きっと税について知らないままだと、こんな気持ちにはならなかったでしょう。

大人になるにつれて、もっとたくさんの税をしていくと思います。そして、今やっと税について何も知らなかった私が、少しだけ身近に感じられるようになって事で、税への第一歩を進めたように思います。

平成9年度 佳作 「税について」 (3組女子)

今春、新校舎が完成し、私はそこで中学校3年生のスタートを切りました。その時のすがすがしく嬉しい気持ちは「頑張ろう」という意欲を起こしてくれました。この校舎の建て替えは、私が入学したとき、始まりました。夏の照りつける暑さの中で、冬の厳しい寒さの中で建築に従事してくれる人々の姿を見てきました。そして建築費用が税金でまかなわれていることも知りました。税金といえば、国民が苦勞して働いて得た収入の中から納められたものです。この校舎は、たくさんの人々のお陰で完成したことになります。「大切に有効に使わないと申し訳ないな」と思いました。そして、改めて学校生活を見つめてみて、義務教育を受けている私たちは、教科書購入の費用まで税金のお世話になっていることに気づきました。

目を外に転じて、生活全般を見渡すと、直接お金を払わなくても利用できるものがたくさんあります。一般道路、そこに設置されている信号機やカーブミラー、歩道橋。社会問題になっているゴミの処理。生活の安全を守ってくれる警察や消防、救急。公園や図書館など、書ききれない程です。老人医療や介護施設、身体に障害を持つ人々のためにも税金は使われています。

もっと視野を広げると、公害対策、災害対策、国際的な援助など、実に役立っていることがわかります。つまり税金は、安全で快適な生活のために必要不可欠なものといえます。

現在、私たちが納めているのは消費税ですが、やがて納税者になります。その時、私たちが受けた税金の恩恵を今まで中心になって負担してくれてた高齢者の方々に返し、次の世代の人々の役にたてるようになりたいと思います。

税金は、いろいろな形となって私たちに還元されています。自分のお金が、自分の生活のためだけでなく、社会的に弱い立場の人々のために、食糧難や病気で苦しんでいる外国の人々のために、地球環境を守るために科学の一層の発展のために使われたら、こんな素晴らしいことはないと思います。

今回、私は税についての知識を得、自分なりに考えることができました。税金が私たちの生活を支える大切なものであることがよくわかりました。

納税者の貴重なお金が、本当に必要なところに有意義に使われ、私たちの生活我より一層向上し、誰もが豊かで希望に満ちた暮らしができる世の中であってほしいと思いました。

この機会に、税について関心を持ち続け、もっと広く深い知識を持ち、税金の抱える問題についても考えられるようになりたいと思います。

平成10年度 会長賞 「税金の笑顔」 2年女子

税金はかわいそう。恨まれることはあっても感謝されることはほとんどない。税金のことを知れば知るほどそう感じます。

私は自分の暮らしがいったいどれくらい税金とかかかっているのだろうと考えたことがあります。私の家族ひとりが、みんなからの税金とかかわりあっています。

まず父です。給料の明細書には所得税と住民税があります。父は製材所に勤めています。だからけっこう肉体労働で、それこそ汗水流して働いてくれています。それで得た給料なのにいろいろ税金が引かれ、そこでやっぱりかわいそうな税金は恨まれてしまいます。ところが三年前の夏、父は疲労から尿道結石という病気になり、激痛のため救急車を呼びました。今考えると救急車は税金の役割の一つなのです。結局父は税金に救われたわけで、感謝すべきなのは税金だとも言えます。

次に母です。年に一度、自動車税の納税のための通知がきます。そのつと母は、「仕事に必要なものなのに、なぜ税金とられるのかしら」

と、また税金の悪口です。だけどその仕事場へ行くために欠かせない道路の整備もまた税金の役割の一つなのです。また、家から毎日出るゴミ、夏はくさりやすく、家に置いておくのがたいへんのようです。それを週に二度収集し、処理してくれるのも、言ってみれば税金のおかげです。だから母も税金には感謝すべきなのです。

そして、私と妹がかかっている税金といえば、納税面では、おこづかいにも消費税の分をいれとほしいと思います。でも、私たちはなんとと言っても、教育費をみんなの税金によって負担してもらっているのです。それに私も妹も、よく図書館を利用しますが、高いお金を出さなくてもいろいろな本が読めるのも、やっぱり税金のおかげです。

つまり、私たちはそれとは気づかないままひとりひとりがけっこう税金のお世話になっているのです。だから、税金は私たちが安心して豊かな暮らしを送るために、ぜったいに必要なものだと言えます。そしてそのことをしっかり意識していれば、税金に対して悪口よりも感謝の言葉が生まれてきます。税金の笑顔が見えてきます。

平成13年度 佳作 「税の作文」 1年男子

ぼくは今年の夏休みに家族で神戸に行きました。神戸の街はとてもきれいで、高いビルや大きなデパートがあり、人も車もいっぱいでした。車を運転していた父が「とても六年前に地震があったとは思えへんなあ」と言いました。

ぼくもそう言われるまで神戸で地震があったことなど、すっかり忘れていました。建物がぐちゃぐちゃに壊れたり、高速道路が折れたり、火事で焼けてしまったりしたあの神戸の街は、今では想像もつかないくらいきれいです。その神戸の街の復興に税金が使われているそうです。ぼくは今まで税金について考えたことはありませんでした。何か買うときに消費税がいくらになるのだろうと考えることはありますが、税金がぼくたちの生活に役に立っているとは思いませんでした。神戸に住む人たちは、阪神大震災の後、水道や電気、ガスが止まり、たいへんな苦労をしたそうです。住むところがなくなって学校の体育館で生活しなければならなくなった人も大勢います。

そんな人たちの生活を支えてきたのが税金です。今まであまりイメージのよくなかった税金が、この話を聞いて、自分たちの生活を支えてくれるたのしいものに思えてきました。もし税金の助けがなかったら、地震や台風などで家がなくなってしまうと、人間は生きていけません。「税金って必要なんだなあ」と思いました。災害や事故の時だけでなく、普段の生活の中でも税金はいろいろ役立っています。学校で使っている教科書はもらえるのがあたりまえだと思っていましたが、これも税金で配られているのだそうです。

ぼくはバスケットボール部に入っていますが、試合で使う体育館などの施設も税金で建てられています。ぼくはこの作文を書くために、自分のまわりでどんなことに税金が使われているのかを人に聞いたり、捜しましたが、とてもたくさんの方に使われているのにびっくりしました。これだけのことをしようと思ったら多くのお金がかかるのだから、税金を払らうのもしかたがないと思うようになりました。でも、みんなから集めた貴重なお金なのだから、みんなの役に立つように有意義な使い方をしてほしいと思います。税金をごまかしたり、むだな使い方をしないようにみんな考えていかなければならないと思います。正しく税金を使って、みんなが幸せになれたら素晴らしいことだと思います。